

講義名	地域まちづくり特別研究Ⅰ		
科目区分	特別研究		
担当教員	西井 和夫		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース/2018年度 人間社会学部 人間健康学科/2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2018年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	3年生	単位数	2
備考			

主題と概要
<p>これからの地域まちづくりに向けた課題とは何かを学び、またそれらの解決方策策定のための計画手法・経済/政策分析・マネジメント手法の体系とその基本的考え方を着実に習得することを主題とする。</p> <p>そのためにまず、経済学部における基幹・専門科目と地域まちづくりとの関連性について体系的な理解を深める。次に、具体的な実践的な地域まちづくり事例を通して、基幹・専門科目群に関する専門基礎の重要性を理解するとともに、地域まちづくりに関連する計画手法・経済/政策分析・マネジメント手法の専門基礎の習得とともに、地域まちづくりと経済との関連性を総合的に学習する。</p>

到達目標
<p>地域まちづくりの実践的展開の最前線(事例)に接しながら、それらと経済学部の基幹・専門科目群との関連性および地域まちづくりのために必要な計画手法・経済/政策分析・マネジメント手法の専門基礎を体系的にわかりやすく理解する。</p> <p>したがって、この到達目標は、地域まちづくりコースを履修する学生だけでなく、すべての経済学部学生にとって、『地域まちづくりと経済との関係』（すなわち、経済学部において地域まちづくりを学ぶ意義とその専門基礎）を総合的に理解することである。</p>

提出課題
レポート作成（課題演習）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
課題は、基本的に次週に採点結果とともに返却し、課題に対する講評を行う。また個別には、コメントを付すことでフィードバックを行う

評価の基準
レポート:70% 出席点:30%

履修にあたっての注意・助言他
特別研究IとIIは、可能な限り両者とも履修することによって到達目標に達成しやすくなる。また、特別セミナーIの履修と学びによって、地域まちづくりに関する関心と興味が高まり、基幹・専門科目をより積極的に履修することになることを期待する。

教科書
.使用しない。

プリント資料及び参考文献
<p><教科書> とくに無し <プリント資料及び参考文献> 講義の中で指示する</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の位置づけ・体系づけ(1)：地域まちづくりの経済学 2. 本講義の位置づけ・体系づけ(2)：「地域総合政策」との関係性 3. 地域まちづくりの捉え方（基本的考え方の確認）(1)「都市地域計画」「地域再生論」との関係 4. 地域まちづくりの捉え方（基本的考え方の確認）(2)「公共政策論」「公共政策論」との関係 5. 地域まちづくりの捉え方（基本的考え方の確認）(3)「地域交通政策」「地域観光政策」との関係 6. 地域まちづくりの諸事例からの理解(1)：公共事業の費用便益評価/経済効果分析事例(1) 7. 地域まちづくりの諸事例からの理解(2)：公共事業の費用便益評価/経済効果分析事例(2) 8. 前半部の確認テスト（課題演習） 9. 地域まちづくりの諸事例からの理解(3)：最近のプロジェクト事例紹介(1) 10. 地域まちづくりの諸事例からの理解(4)：最近のプロジェクト事例紹介(1) 11. これからの地域まちづくりを考える(1)：これまでの地域まちづくりのための計画手法の再考 12. これからの地域まちづくりを考える(2)：エリアのマネジメント手法(1) 13. これからの地域まちづくりを考える(3)：エリアのマネジメント手法(2) 14. これからの地域まちづくりを考える(4)：エリアのマネジメント手法(3) 15. 後半部の確認テスト（課題演習）

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション
<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
予習は不要だが、復習は、受講後に各自で判断しなさい。そのためにも準備学習よりも、毎回の講義をしっかり聴くこと。（講義を聴いていない学生には、準備学修などできるわけではない）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
基本的な質疑応答はこれまでも実施しているので、ICTの活用（利用）の計画はない

実務経験の有無及び活用
実務経験なし

備考